

吹田市商工業振興ビジョン策定専門部会 議事録

- 1 開催日 令和6年8月30日（金）
- 2 開催時間 午後3時30分から5時30分まで
- 3 開催場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室
- 4 出席委員 太田委員、山下委員、森山委員、山口委員、西田委員、布施委員、松下委員
立石委員、黒木委員、樋上委員
- 5 出席職員 井田部長、橋本次長、谷口参事、村澤参事、大村主幹、利光主幹、石田主査、
（事務局） 鎌田主査、松藤主査、田中主任、委託事業者
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 無し
- 8 配付資料（事前送付）
 - （1）次 第
 - （2）資料集
 - 資料番号1－1 吹田市商工振興ビジョン策定専門部会の設置目的及び活動スケジュール
 - 資料番号1－2 吹田市商工振興ビジョン策定専門部会設置要領
 - 資料番号1－3 吹田市商工振興ビジョン策定専門部会委員一覧
 - 資料番号1－4 吹田市商工振興ビジョン策定スケジュール（案）
 - 資料番号2 吹田市商工振興ビジョン2025について
 - 資料番号3－1 吹田市商工振興ビジョン2025評価検証の概要
 - 資料番号3－2 吹田市商工振興ビジョン施策評価検証シート
 - 資料番号4－1 新たな商工振興ビジョンの策定に向けた市内事業者の実態調査の概要
 - 資料番号4－2 新たな商工振興ビジョン基本方針（たたき台）・調査事項・設問対応表
 - 資料番号4－3 令和6年度 吹田市商工業実態調査 調査票（案）

9 会議内容（発言要旨）

<案件（1）「吹田市商工振興ビジョン策定専門部会の設置目的及び活動スケジュール」について>
事務局から内容説明がありましたが、意見、質疑はありませんでした。

<案件（2）「吹田市商工振興ビジョン2025の概要」について>

事務局から資料説明の後、次の意見、質疑がありました。

(委員) 事業者にとって、ホームページ作成等作成事業補助金は役に立っています。依頼する側、依頼を受ける側どちらも市内同士だと吹田市以外にお金が流れないのでよいと思います。ホームページ作成を請け負う登録作成事業者数も急激に増えたのではないのでしょうか。あとはそれをいかに活用するかです。まだ知らない方もおられますので、いかに広めるかが大事だと思います。私は今後 10 年に劇的な変化が起きると思っています。IT もかなり変わります。ビジョンだけではなく、上位計画とすり合わせながら臨機応変にやっていただきたいと思います。今後、カードがないと買い物ができなくなったり、マイナンバーカードが保険証になったりしますので、臨機応変な動きができるような計画づくりをしたいと思っています。

(委員) 吹田市は創業が多いということですが、平成 11 年頃、国が創業支援を始めた時、私は創業の事業を担当していました。創業講座を開くと全国から来てくれました。その当時はベンチャー支援と創業支援が一緒でした。受講生の中には広島大学の特任教授で広島でバイオベンチャーの会社を立ち上げた方、東京で事業を始められた方もおられました。最近、商工会議所が行う創業支援は、社会課題解決型の創業や趣味の延長線上でやるような創業が中心で、以前とは変わってきたと感じています。国は創業、ベンチャーと言わなくなりました。国のスタートアップ支援は支援の対象が変わっています。創業の補助金に関する問い合わせはコンスタントにありますが、国の施策がスタートアップ支援に変わってきている中で、吹田市がスタートアップ支援をするというのは違うと思う。新しいビジョンを作るのであれば、創業支援について、どのような支援のあり方があるか考えなければならないと思っています。経済の循環がビジョンのテーマの一つですが、吹田市の経済圏は吹田市だけでできているのではないという状況の中で、地元の商工業をどのように振興していくのか。吹田市は地方都市とは違う位置付けですから、それをビジョンの中に取り込んでいかなければ、市の名前を変えたら全く一緒のビジョンになってしまうということになりかねません。地域の循環を吹田市だけで考えることができませんので、その部分をしっかりビジョンに盛り込んでいくことが必要ではないかと思っています。

(委員) 先ほど事務局が商工振興ビジョン 2025 の説明で、コロナウイルスの影響で中間見直しができなかったと言われました。何が起るか分からなかったと。会長は 10 年前と現在の両方を見ておられると思いますが、思っていたのとは違うと思っておられますか。10 年先のことを考えるわけですが、最初に関わっておられた方の思惑と今は変わっていますか。10 年前に計画を立てた方はコロナウイルスが流行って状況が変わるということは想定していなかったと思います。これから 10 年先のビジョンというのは、商売人の発想で言うと、どういう補助金を作るかという発想に思えます。

10 年先、どのようなことを目標にしているのか。この先どうなっていくのか。逆に言うと、こうなったら潰れてしまうから直さないといけないという発想でいくのか。10 年後は想像ができません。

10 年前にどのように計画を立てられたのでしょうか。現在とのズレはあると思います。今はウ

イズコロナの時代です。ずっとコロナは流行っていますから、10年先を想定することはできません。

先ほど、10年前と今とでは状況が変わったと言われましたが、商店が全部閉店したから調べられないということでしょうか。人が出て行くことができなかったという意味で言われたのか、業態が大きく変わってしまったということでしょうか。飲食店もかなり変化したと思います。10年先を想像してビジョンを作るということですが、途中で中間見直しはあるものの、そんなことができるでしょうか。無責任な表現になりますが。

(事務局) おっしゃるように、10年前にビジョンを作った時と現状とでは、もちろんギャップはあると思います。行政で何かするとなると、ある程度、計画性を持って執行することが求められます。何%当たるといったものではないと思います。方向性を示すなら、大体こういう方向で行っていると。それがイレギュラーなことがあってずれるかもしれませんが、基準になるものがなければならぬ。ゼロベースではなかなかいきませんので、良いか悪いか、節目で見通しを立てて進まないといけないと動けません。

(委員) 商店街の事業が後半のほうに載っていましたが、こういう事業は続けてもらいたいと思います。削ってほしくないものもありますので、悪いところを直すという形でやってもらいたい。吹田市は商品券事業をやっていませんので、またお願いします。他市はやっています。高槻市は今もやっています。よろしくお願いいたします。

(会長) 5年後、10年後といったピンポイントでは分かりづらいと思いますが、大きなトレンドは予測できると思います。IT、AIによって生活が大きく変わり、ビジネスのやり方も変わることは想像できます。絶対こうなるということは分かりませんが、ある程度、方向性を作っておかないといけません。その場その場で対応しているようではマネジメントではありません。納得感も必要です。

ビジョンですから、想いもあると思います。全ての市が同じビジョンを作れるはずはありません。各市、自治体の想いもあるでしょうから、そういったものをひっくるめてビジョン、方向性を作ることが大事だと思います。またいろいろ貴重な御意見をお願いします。

(委員) 私は商工会議所で経営指導員を担当していて、商店会の活性化事業や中小企業の支援をしていました。その後、独立して主に経営相談をしています。また、2年間、吹田市で商業相談の担当をしました。

商業相談では、月に3回、庁内の相談室で相談業務を行っているのですが、相談者が少ないという現状があります。市役所の職員さんは一生懸命集客してくださいましたが、補助金の申請と絡めるなど、やり方ももう少し考えたらどうかなと思います。商工会議所の相談会には多くの方が来られて、相談に乗ってもらえなかったという話も聞きます。横の連携も全くありません。そちらは一杯なのになぜこちらには来てくれないんだと思いながら、横の連携の問題を感じました。

商店街にもお邪魔して役員の方のお話も聞きましたが、商店街同士の連携がないと感じました。

頑張っている商店街はどんどん横につながろうとして実際つながっているんですが、衰退傾向にある商店街で役員をされている方は自分だけ頑張っていると。応援してくれる同業者の情報を知らないかと聞かれることが多くあります。もう少し横の連携が取れるような仕組みを市役所が作ってくれたらいいのではないかと感じました。

(会長) こういう施策にはこういう補助金があるということは、御存知の人も多いという話が前からありました。それをもっと広報しなければならないなど。よろず支援拠点も都道府県ごとにありますし、そういった相談窓口をしっかりお伝えすることも大事だと御意見をお聞きして思いました。

(委員) 今月、魅力ある中小企業というブランディングを考える事業があります。コロナからスタートした令和の時代に本当にいろいろ変わってしまいました。DXの普及や少子高齢化が人口減少という言葉に変わったり、本当に時代の移り変わりが早いなと思います。最後の5年が思っていたのと違ってくるのではないかと、コロナの影響で大きく差が開いてくるのではないかとというところは当然感じます。やっぱり何を目指すかがとても大事だと思います。

私はビジョンの冊子を3冊持っております。平成30年に吹田市商工振興ビジョンを抜粋して話していただくということを有志で行いましたが、知ってもらう機会が大切ですし、吹田で事業をやるなら当然これを持っていなければいけないというところまで広まると、なぜ吹田で起業するのかというところにつながってくると思います。

大阪府下で一番学生が多いのが吹田市ですが、学生時代だけ吹田市にいて卒業と同時に吹田市から出て行くのではなくて、地場産業に携わったり雇用に生きるところまでつながるビジョン政策になると、吹田の魅力向上をもっと達成できると思います。今後10年を楽しみにこれから頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員) うちの小規模事業者が多いので、その視点から言うと融資事業の件数が少ないです。最近は無保証で借りられる日本政策金融公庫を利用する方が多いのですが、信用金庫等の金融機関につながりという点でも融資事業は継続してほしいと思っています。

今年の吹田産業フェアの出店数が少なかったという点について、出展した方に聞いたところ、出展費用が高いので売上が少ないとかなり厳しく、出展費用が高いことがネックだということでした。

令和5年度の訪問件数が伸び悩んだという報告がありましたが、当初200件を超えていましたので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

(委員) 最近、国が創業ではなくスタートアップを支援しているという意見がありましたが、たしかに創業率向上も掲げてはいますが、岸田政権になってからスタートアップ育成5か年計画ということで大学発のスタートアップ、ゲノム編集といったところに重点的に予算を配分しているのは間違いありません。

経済産業省全体としてはその通りですが、地方の経済産業局の視点で見た場合、経営学上の定義上はスタートアップとスモールビジネスの2つしかありません。スモールビジネスは家業や

ファミリービジネスになりますが、核融合のスタートアップと家業とでは対極的で、その間があるはずだという話をずっとしてきました。われわれもそこはすごく重要だと思っています。例えば、跡継ぎの方が代替わりの時に新たな事業に着手し、成長しているという事例も多くあります。「跡継ぎベンチャー」という言葉を近畿局でつくりました。跡を継がれた方々が最近、堺市、八尾市といった南大阪地域でグループ、コミュニティを作っておられます。先ほど10年後の目標についての御指摘がありましたが、まったくその通りで、既存の企業だけでなく、コミュニティやグループでいかに変化に対応するかが非常に重要になります。行政からサポートを受けつつ、大学発ベンチャーでもない、中規模的な成長をしていくようなところを面的に応援する仕組みが大事だと思っています。その中では起業家交流会といったコミュニティづくりも大事だと思いますので、成長志向のある方のコミュニティを作る支援策があればいいと思います。

(委員) 私は3月まで起業家交流会の実行委員をしていて、そこで吹田産業フェアにも関わらせていただきました。商工振興ビジョン2025の説明を聞き、大きな動きの中の歯車の一つとしてやっていたのだということを改めて感じました。起業家交流会の実行委員をして思ったのは情報発信が大事だということです。実行委員をしている時、『市報すいた』を見て来られた方が結構いたことに驚きました。最初は『市報すいた』を読んで応募しようと思う人がいるのだろうかと思っていましたが、意外に見ている方がおられて驚きました。吹田市は大学生が多く、人口減少していくということから考えると、SNSのLINE、Facebookなどを利用した情報発信についても考えていかなければならないと思いました。

(副会長) 次の10年後の吹田市のあるべき姿、夢のようなものを盛り込みながらビジョンを作成できればと感じています。10年前に作られたビジョンを拝見したところ、古くならない内容も素敵だなと思いました。トレンドを重視しすぎると、10年後に読んだ時に、これは10年前に流行っていたなということになってしまいますので、それはビジョンとしてはどうなのかなと感じます。そうしたところも意識しながら検討する必要があると思います。人口減少など様々な課題もありますので、拡大、成長路線だけではなく、むしろ豊かさのようなものを追求してはどうかと感じました。他の委員からも話がありましたが、地域にいかに循環させるのか、調和といった今の時代にふさわしい言葉を用いてビジョンを作ることが必要になると思います。吹田市らしさをいかに出せるかも重要なところだと思います。たくさん意見が出ると吹田市らしさがイメージとして共有できると思いますが、吹田市だからできることを盛り込んでいく必要もあろうかと思っています。評価のところで達成率や評価などされていますが、B、Cといった悪い評価が付いたという理由だけでカットすべきかどうかもしっかりと議論が必要だと思います。いわゆるKPI的な評価が中心になるかと思いますが、質の部分の着目が必要になると思います。この間、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、劇的な変化がありました。大きな価値観の変化、

行動様式の変化、ビジネスのあり方自体大きく変わりましたので、その上でこの数字がどうかということは改めて検証が必要だと思います。

＜案件（３）「新たな商工振興ビジョンの策定に向けた市内事業所の実態調査について」＞
事務局から資料説明の後、次の意見、質疑がありました。

（委員） ＩＴについて書かれていますが、用語が分からない人が多いと思います。eラーニング、グループウェアと言われても分からないと思います。テレワークも一部の人は分かると思いますが。あとは相談先を入れてほしいと思います。何から決めたらいいか分からないということをよく聞きますが、どこに相談するかも分からないと。それを広めるにはどうしたらいいかが今後の施策になると思いますし、周知をどうしていくかというところにつながると思います。

（事務局） 御意見いただいた内容について、ページ内に収まるように考えたいと思います。

（委員） 吹田市は数年前、災害がありましたのでＢＣＰについても進めていかなければならないと思います。用語解説は必要だと思います。

（委員） アンケートの趣旨は理解できます。従業員 20～30 人の中小企業の方々が回答してくれるのであればＢＣＰが何かということは分かってくれると思いますが、実際は半分以上がそれ以外のところですよ。逆にそういう方々が無理矢理回答したところで実態を反映したものにはならないと思います。創業が盛んになり、従業員がいない事業所が非常に増えています。最近は副業でも商工会議所の会員になってくれる方が増えてきています。そういう意味では本当に小規模なところが増えてきています。そういうところにアンケートを郵送しても、ほとんど答えようのない設問で、その方々が無理矢理回答してしまうと結果に影響を与えると思います。きちんとした経営組織を持っている企業であれば回答いただけたと思います。サンプリングを一定の企業以上にするとか、サブクエスチョン化するといったやり方を取ると思います。サンプリングで調整するのか、アンケートの中身で調整するのか、その点は検討ください。

（事務局） 前回のコロナの調査と同じ方法で事業所を抽出しています。基本的な情報しか分からないということもあり、絞ることが難しい面もあります。内容で工夫できないか考えます。

（委員） この内容だとサブクエスチョン化しないといけないようなところもあると思います。

（事務局） 設問については、過去に実施したアンケート調査と同じものを用いて前回との比較などを取ろうとしているものがあります。また、回答していない場合に、回答のない意図が分かるように「意見がない」「分からない」といった選択肢を設けた方が良いという意見を事前に会長にいただいた点を反映しています。

（会長） 信頼性をどのように担保するかと。そこを担保できるような方法を考えたほうがいいという御

意見だと思います。その辺りを踏まえて、事務局のほうで考えていただきたいと思います。

(事務局) 今回は無作為抽出ですので、個人事業主の方に当たる可能性もあると思います。ただし属性の部分でフェイスシートと言いますか、1 ページのところに従業員数が分かるようになっていまして、クロス分析をする中で従業員数と無回答率を掛けるという方法である程度除外は可能だと思います。無作為抽出のため、どうしても当たってしまうことはあり得ます。

(委員) 最初のページの情報で大体調整できるのでしょうか。個人事業主の場合、継続性について聞かれても関係ないと思われるかもしれません。最低5年以上の企業のみ回答するようにするなど工夫が必要です。経営年数についての質問があるので、クラス分けしてもいいかもしれません。

このアンケート調査は、市が施策を立てる上で企業が何を望んでいるかを調べるための調査だと思いますが、分からない質問があると回答自体をやめてしまう方もいるかもしれませんので答えられる範囲でいいというようにしてはどうでしょうか。また、用語解説や回答例を載せてはどうでしょうか。

(事務局) 用語解説については検討したいと思います。

(副会長) 減らしてもいいと思う質問があります。問28 SDGs に関してですが、SDGs は2030年までに取り組むものです。今回のビジョン作成にあたって、この設問がふさわしいかどうか改めて検討してはどうでしょうか。SDGs の浸透について見たいのであれば、項目を残すほうがいいと思いますが、こういったことを今後売りにしていきたいということであれば時代遅れ感が出るのではないかと思います。

(会長) 分かりやすく、回答しやすく、できるだけ信頼性が担保できるように。回答しにくいところはインタビューなど直接出向いて声を聞くとといった工夫もしながら実態が反映できるアンケートづくりをしていただきたいと思います。

<会議全体を通じて>

(副会長) 委員の皆さまが非常に活発に議論されていることが印象的でした。意見が出てこないことにはいいビジョンが作られないと思いますので、こうした場が非常に重要であり、意見が出やすい環境づくりも非常に重要だと思います。

(会長) ビジョンはみんなで作りあげて、みんなでそちらに向かって歩いていくものです。色々な御意見をいただき、皆さんの御意見を踏まえたビジョンを作り、みんながそれに向かって歩んで行きたいと思います。